

【魚類】カニ・アンコウ・おばけえび・餌について

回答：しながわ水族館 <https://www.aquarium.gr.jp/>



～カニ～

Q カニはどうやって呼吸しているのか

カニは魚と同様にエラ呼吸を行います。

エラ呼吸とは水に溶け込んでいる酸素を取り込む呼吸方法です。じゃあ、陸を歩いているカニは呼吸してないの？と思うかもしれませんが、陸にいる時も呼吸はしています。カニが泡を吹いているところを見たことがありますか？カニは体内に水をため込んでおり、その水を泡にしてたくさん空気を入れ込むことで、酸素を取り込んでいます。

Q カニに骨はあるんですか？なかったらなんで立っていられるのか知りたいです。

カニの仲間は外骨格という硬い膜や殻で包まれています。外骨格という字の通り、実はカニの殻こそが骨なのです。人間はご存知の通り、筋肉の中に骨があるので内骨格、カニは骨が外にあって中に筋肉があるので外骨格というわけです。ちなみにカニの脚を食べたときに薄く透明な骨のようなものが出てくると思いますが、これは腱(けん)といいます。人間でいうアキレス腱のようなものです。この腱が筋肉を動かした時に、外骨格(殻)に力を伝えることで動きます。

Q タカアシガニはどうやってタマゴを産むの？どんなタマゴなの？

タカアシガニは水深 200～400mにすんでいます。春の産卵期になると水深 20～30mまで移動して産卵することが知られています。タマゴは、他のカニと大きく変わりませんが、色は濃い赤色をしています。実はタカアシガニの生態に関しては、まだ解明されていない謎の部分が多く、産卵に関しても詳しいことはわかっておりません。海では、まだ子どものタカアシガニがとれることがあり、タマゴから孵化(ふか)させて育てるといった研究も行われています。

Q.カイやカニも眠るのですか？

人間は睡眠をとることで、脳と体を休ませていると考えられています。

カイやカニには、脳がないので、人間と同じような睡眠はとっていないと考えられます。しかし、夜の間は砂に潜るなどして体を休めています。

～アンコウ～

Q 光るアンコウと光らないアンコウはどう違うの？

種類もすんでいる場所も違います。

光るアンコウで有名なのは、チョウチンアンコウという種類で水深 200～3000mに生息しています。光らない「アンコウ(キアンコウ)」は平べったく、水深 30～500mの海底でじっとしています。チョウチンアンコウは光の届かないとっても深い海を泳ぎながら、頭のとっぺんから伸びた所を光らせて、様子を見に集まった魚を食べます。

海底にいるアンコウは、ヒレを変化させたニセモノの餌を動かして、それを食べようとやって来た魚やエビなどを食べます。

Q チョウチンアンコウはなぜ寒い場所に行けるのですか？

チョウチンアンコウは暗くて寒い深海である水深 600～1,210m に暮らしています。深海の特徴として、暗くて寒く、水圧が高いことがあげられます。そのため、深海にすむ生きものは長い年月をかけて少しずつ体をならし、適応していったと考えられており、チョウチンアンコウもそのうちの一種だったのではないのでしょうか？

深海で生きるためには、高い水圧に耐えうる身体でないといけません。浮袋を持たず、身体の水分量が多いチョウチンアンコウは、深海でも生きていけます。

Q.アンコウはどうして動かないの？

動きます。

アンコウの仲間は、海底の砂に潜りエスカ（魚を誘き寄せる疑似餌）を使い、じっと獲物が来るのを待ちます。また自分の身を隠すために周りのものに擬態しているため、あまり動く姿が見られないのだと考えられます。

～おばけえび～

Q. この前おばけエビ(アルテミア)を育てた時に、水道の水をそのまま入れてはいけ

なくて、海の素を入れたり、一日置いたりしたのですが、水道水のままでなぜ育たな

いのか、水族館の水槽のお水はどのような処理をしているのか、わかりやすく説明し

てもらえるとありがたいです。

水道水には消毒用の塩素という薬品が少しだけ入っています。人間には害がなくても、魚やエビ・カニなどの甲殻類は、塩素が少しでもあると死んでしまいます。なので、塩素を取り除いてあげないと、生物を飼うことができないのです。

また、アルテミアは、塩湖という海水の湖にいる生物です。なので、アルテミアを育てるときには、塩素を取り除いた水に海の素を入れて海水を作ってあげます。

水族館では、川にすむ魚たちには水道水にチオ硫酸ナトリウムという薬品を入れ、塩素を取り除いてから使っています。海の魚たちには、天然の海水をトラックで運んできて使っています。

Q おばけえび(アルテミア)を食べる生きものってなんですか？

産まれたばかりの小さい魚、クラゲ、色々な生きものがアルテミアを食べます。水族館でも多く使っていますが、食卓に並ぶ養殖魚でも小さい時期は餌として使います。

～餌について～

Q 毎日手をかまれないでどうやってカメなどの生き物にエサをあげていますか？

ほとんどの生きものには、水槽上からエサをまいたり、給餌するための棒「給餌棒」を使ったりしてあげています。

トンネル水槽にいる生きものには潜って餌をあげることがありますが、その際においに反応し、エサと勘違いして手をかまれるようなこともあります。

そうすると、ケガの原因となってしまうので、ダイバーは気をつけながら潜っています。

Q.お魚のごはんは毎日どこで買いますか？

しながわ水族館では、スーパーや町のお魚屋さんではなく、その元となる水産会社から直接買っています。

冷凍のアジ、サバ、イワシ、サンマ、コマイなどをまとめて大量に購入し、2週間に1回、水族館に大きなトラックで運んできてもらいます。冷凍のお魚は一箱約 15 キロありますが、飼育スタッフは毎日必要な分を解凍して餌として使っています。

Q 熱帯魚は何を食べているの？

口の大きさや生物によってエサを変えています。

生まれてきたばかりの魚には、1mmもない小さなブラインシュリンプなどを与えます。

口の大きな生き物には、アジ、イワシなどの切り身を与えています。

Q ルリスズメダイは1日に何回ご飯を食べるんですか？

1日3回程度エサを与えています。

一度に多くのエサをあげると食べ残しが出てしまい、水質が悪くなる原因につながってしまいます。

また幼魚、稚魚のように体の小さな魚には、一度に食べられる量が少ない、エネルギーをたくさん使うことからこまめにエサをあげることが必要です。

Q.何種類、何匹いますか？毎日のごはんはどのくらいですか？

しながわ水族館には約450種4000匹の生物がいます。

種類によって餌の量や回数が違います。小さな魚には1日に何回も餌をあげたり、大きな魚には1日おきに餌をあげたりします。シロワニというサメには、1週間に1度、約3kgの餌をあげています。平均すると魚類全体では、1日に15kgの餌をあげていることになります。



(C) Gakken

この内容を無断で転載、複写・複製することは固くお断りいたします